第 23 期(平成 30 年 3 月期)事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日より平成 30 年 3 月 31 日まで

Ⅰ　公益目的事業１

環境の保全に配慮した繊維製品の再生利用等を通じて、環境への負荷ができる限り低減される生活文化の創造に寄与する事業

１．環境保全に配慮したユニフォームのリサイクルシステム提供事業（リサイクルマーク事業）

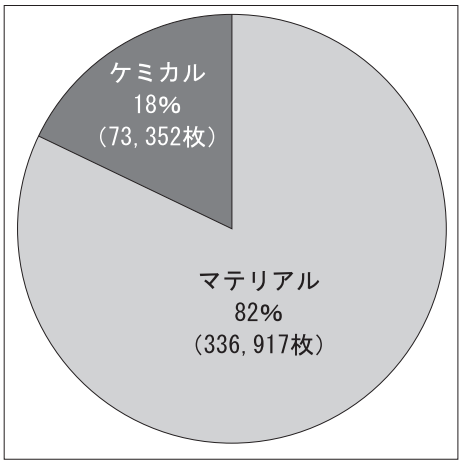
（１）リサイクルマークの交付

平成 29 年度に交付したリサイクルマークは、下記のとおりである。

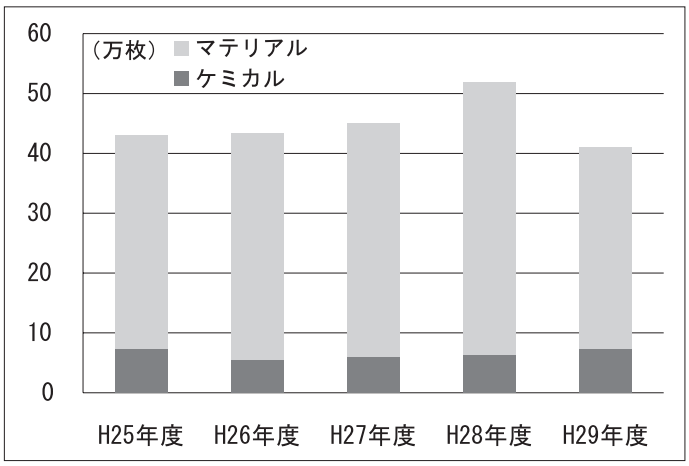
マテリアルリサイクルマーク	336,917 枚	448 件
ケミカルリサイクルマーク	73,352 枚	344 件
合　　計	**410,269 枚**	**792 件**

平成 29 年度交付実績

リサイクルマーク



平成 29 年度交付内訳



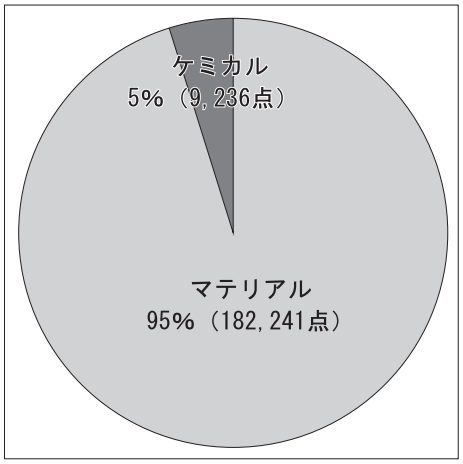
過去５年間の交付推移

（２）使用済みユニフォームの回収

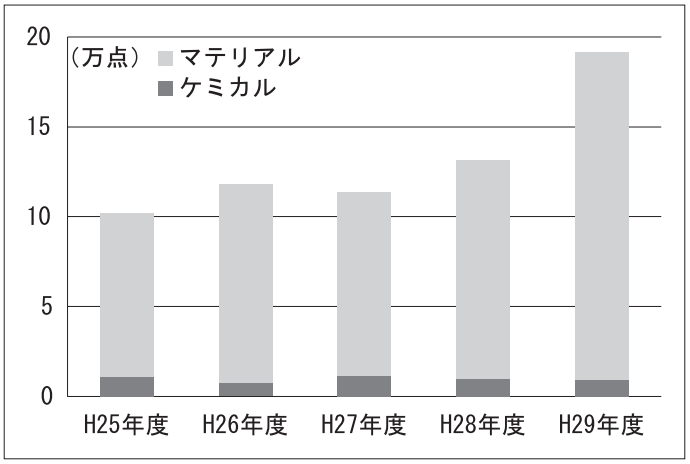
平成 29 年度に回収した使用済みユニフォームは、次のとおりである。

マテリアルリサイクルマーク付使用済みユニフォーム	182,241 点	370 件
ケミカルリサイクルマーク付使用済みユニフォーム	9,236 点	10 件
合　　計	**191,477 点**	**380 件**

平成 29 年度回収実績



平成 29 年度回収内訳



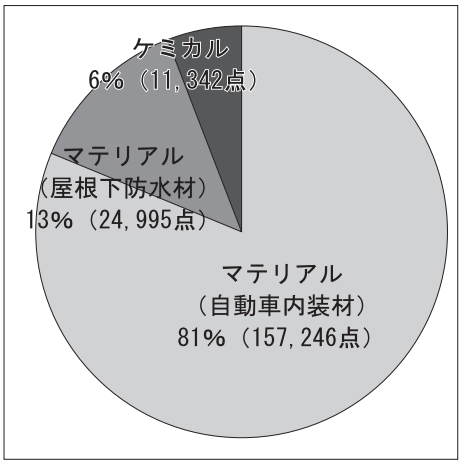
過去 5 年間の回収推移

（３）使用済みユニフォームのリサイクル処理

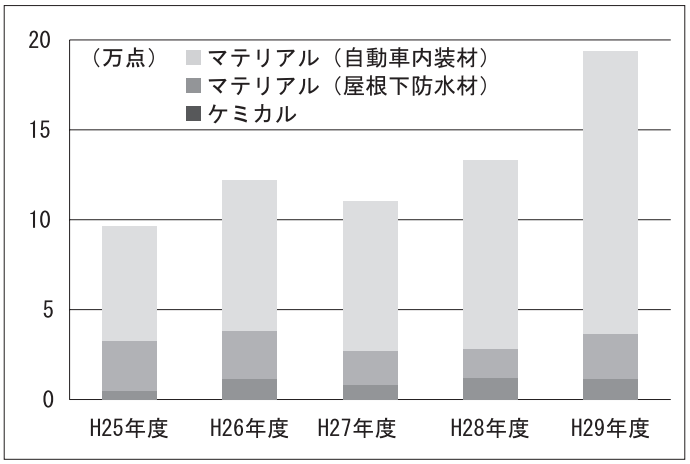
平成 29 年度にリサイクル処理した使用済みユニフォームは、下記のとおりである。

マテリアルリサイクル処理	自動車内装材	157,246 点	81.2440 t
	屋根下防水材	24,995 点	7.4065 t
ケミカルリサイクル処理	ナイロン６原料	11,342 点	5.5539 t
合　　計		**193,583 点**	**94.2044 t**

平成 29 年度リサイクル処理実績



平成 29 年度リサイクル処理内訳



過去 5 年間のリサイクル処理推移

（４）リサイクルマーク事業管理委員会の開催

本委員会は、リサイクルマーク事業における重要事項の協議やトラブル時の対応を行っている。平成 29 年度は、下記のとおり開催した。

日程：平成 29 年 6 月 1 日　　場所：航空会館（東京都港区）

内容：平成 28 年度広域認定報告書の決定、回収使用済みユニフォームの搬入未完了問題の協議、平成 28 年度広域認定変更状況の報告

（５）リサイクルマーク事業管理業務の実施

◆ 広域認定の管理

本事業にかかる広域認定について、環境省へ廃棄物（使用済みユニフォーム）の処理実績報告、認定内容の変更届出及び変更申請を行った。

◆ リサイクルマーク商標

本事業リサイクルマーク（登録第 4075766 号 指定類：第 25 類）の商標権の更新登録手続きを行った。

◆ リサイクル処理に関する証明書の発行

将来におけるリサイクル処理を証明する「リサイクル処理事前証明書」、すでに実施したリサイクル処理を証明する「リサイクル処理事後証明書」を会員からの申請により発行している。平成 29 年度は事後証明書を 46 件発行した。

◆ 会員への回収・リサイクル処理状況の報告

平成 29 年 5 月、平成 28 年度中に回収リサイクル処理した使用済みユニフォームについて、対象会員に対し「使用済みユニフォーム回収・リサイクル処理終了報告書」をもって報告した。

◆ 未回収ユニフォームの回収促進

平成 29 年 5 月、会員が提出したリサイクルマーク交付申請書の情報に基づき、平成 28 年度中に回収予定日が到来した未回収ユニフォームについて、対象会員に対し「着用終了予定日経過通知書」をもって通知し、未回収ユニフォームの回収促進を図った。

２．環境保全に配慮した生活文化に関する調査研究事業

（１）里山を通じた循環型地域づくりのための次世代（ユース）育成・交流促進事業

本事業は、将来の循環型地域づくりの中心的役割を担う次世代の育成を目的に、平成 27 年度から 3 ヵ年計画として、東京都八王子市の里山「高尾 100 年の森」で里山体験プログラムを実施するものである。

最終年度である平成 29 年度は、小学生から大学生のユースを対象に、地域や世代等様々な交流を目的とした里山体験・整備を中心としたプログラムを 7 回実施し、3 年間の活動実績及び成果をスライドプログラムにまとめた。

なお、本事業は平成 29 年度地球環境基金助成活動として実施した。

※地球環境基金：独立行政法人環境再生保全機構が設置する国と民間の双方からの資金拠出に基づいた基金。その運用益等を以って内外の民間団体（NPO・NGO）による環境保全活動への助成その他の支援を行う。

◆ 里山体験プログラムの実施

高校生・大学生を対象とした里山整備プログラム、地域間・世代間交流プログラムに加え、幼児・小学生親子と高校生・大学生ユースの交流を目的とした交流プログラムを実施した。参加者は、多様な里山体験、そして同じ学校の仲間同士、それぞれの学校

同士、さらに様々な世代や地域の交流をとおして、人と里山の関係の重要性を認識することができた。

▶ 第 1 回プログラム「2017 年度の里山活動始動」

日　程：平成 29 年 5 月 28 日（日）
参加者：高校生・大学生 37 名
講　師：岩本 彩哉氏、柴田 和幸氏（風土・環境フォーラム）
内　容：枝葉・丸太・ごみ撤去、橋づくりなどの沢沿いフィールド整備

▶ 第 2 回プログラム「夏の里山・沢沿い歩道をつくる」

日　程：平成 29 年 6 月 4 日（日）
参加者：高校生・大学生 18 名
講　師：岩本 彩哉氏、柴田 和幸氏（風土・環境フォーラム）
内　容：橋づくり、沢の流れの復旧、ぬた場保全のための足場作り等の沢沿いフィールド整備、活動ふりかえり

▶ 第 3 回プログラム「夏の里山体験　～里山の沢に遊ぶ　水でつながる森と里～」

日　程：平成 29 年 7 月 9 日（日）
参加者：幼児・小学生親子・高校生・大学生 55 名
講　師：岩本 彩哉氏、柴田 和幸氏（風土・環境フォーラム）
内　容：子どもとユースの交流活動、サワガニなどの生き物探し、水流づくり等の沢遊び、活動ふりかえり

▶ 第４回プログラム「秋の里山整備　～新しいロングトレイルを整備する～」

日　程：　平成 29 年 9 月 10 日（日）

参加者：　大学生 7 名

講　師：　岩本 彩哉氏、柴田 和幸氏（風土・環境フォーラム）

内　容：　地元八王子城由来の史跡・太鼓曲輪（たいこくるわ）がみられる未整備のトレイルの整備、活動ふりかえり

▶ 第５回プログラム「秋の里山体験　～秋の里山ハイクとネイチャークラフト～」

日　程：　平成 29 年 11 月 12 日（日）

参加者：　幼児・小学生親子・高校生・大学生 23 名

内　容：　子どもとユースの交流活動、自然の中の色さがしゲーム、間伐材や秋の恵みの木の葉や木の実を使ったネイチャー・クラフト、作品展示・発表会

▶ 第 6 回プログラム「新年の里山体験　～里山の新年を祝う・冬の森の過ごし方～」

日　程：平成 30 年 1 月 14 日（日）
参加者：高校生・大学生 16 名
講　師：岩本 彩哉氏（風土・環境フォーラム）、菊谷 福次氏（地元農家）
内　容：地元八幡神社参拝、神社の来歴から八王子の歴史を知る、堆肥ヤードづくりや落ち葉かき等のフィールド整備、地元農家の方の話の聴講（講師は、遡ること戦国時代、北条氏照の家臣の家系。八王子名産“絹”の養蚕から時代変遷にあわせ現在は農業に従事している。）

▶ 第 7 回プログラム「早春の里山体験　～岐阜の活動者との対話～」

日　程：平成 30 年 3 月 21 日（水・祝日）
参加者：高校生・大学生 19 名
講　師：柳沢 直氏（岐阜県立森林文化アカデミー准教授）
内　容：早春の里山散策、森林文化アカデミー紹介、活動総括スライド動画鑑賞、高尾の活動について考えるグループワーク

◆ 活動総括スライドプログラムの作製

今後の活動を実施していくうえでの広報用ツールとして活用するため、平成 27～29 年度の活動記録をまとめたスライドプログラムを作製した。また、本スライドを活用し、第 7 回プログラムで参加者と 1 年間の活動成果を共有し、今後の里山活動の展望について話し合った。

◆ プログラム参加者意見交換会

今後の活動発展を目的にプログラム参加者の大学生と意見交換会を実施した。

日程：平成 30 年 2 月 16 日（金）　　場所：佐川急便株式会社 本社会議室

参加者：7 名（プログラム参加者 3 名、スタッフ等関係者 4 名）

【プログラム参加者意見】

・現状160名ほどいる学生メンバーへLINEを使い情報発信をし､参加者を募っている。今後もそれは変わらず、学生からの自主的な参加となる。

・昨年度から参加しているが、フィールド整備など積極的にものづくりや作業に関わっていきたい。

・大学の授業で学んだことを、フィールドで実体験できたことがとても有意義だった。園芸学科だけでなく、造園やランドスケープ、地元のプロジェクトを学んで参加する学生は多い。

・今年度のように、子供や親子とふれあう機会はとてもいい。もっとふれあいたい。

・参加している人との交流がよい。大学で得られないものを得ている。毎回の食事はとても楽しみ。

・一番印象深かった経験として、夜の森での体験がある。テントで泊まるなどもできるといい。

・整備されているところとされていないところの比較を見られたのがよかった。

・大学の研究とも通じて、調査や研究につながるといい。

・今後、持続可能性の視点から、SDGsとしてどうとらえていくかなども関心がある。

◆ 対象地域活性化に向けた佐川急便株式会社との連携

本事業実施地域である東京都八王子市高尾地域「高尾 100 年の森」の地権者である佐川急便株式会社と連携し、現地の活性化と一般周知を目指し、イベント事務局、地域との渉外、設備充実検討、森林整備等を行った。

（２）南九州における 900ml 茶びんのリユースシステム事業フォローアップ

環境省の循環型社会形成実証事業(※)として、本機構が新規に企画・製造し、市場に出荷された 900ml(茶)統一規格びんは、主として焼酎の充てんに使用されている。この 900ml(茶)統一規格びんは、対象地域である南九州を中心に、現在も順調に出荷本数・回収本数を伸ばしており、平成 29 年度の出荷・回収実績は、下記のとおりである。

	全　国	九州内のみ	平成 16～29 年度総数
出荷本数	991,015 本	604,534 本	20,617,836 本
回収本数	540,518 本	478,313 本	8,493,697 本
回収率	**54.5%**	**79.1%**	**41.2%**

平成 29 年度リユースびん出荷・回収実績

※事業名：平成15・16年度循環型社会形成実証事業「南九州における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業」／平成 17 年度フォローアップ事業

３．持続可能な社会づくり活動表彰事業

（１）公募・審査

平成 29 年 6 月 30 日～8 月 31 日、自薦他薦を問わず受賞候補者を一般公募し、審査基準に基づき、事務局が応募者 26 件ついて一次審査を行い、10 件の候補者を選定した。

平成 29 年 10 月 12 日、持続可能な社会づくり活動表彰審査委員会を開催し、審査委員が一次審査選定候補者について審査し、平成 29 年度受賞者を決定した。

【審査委員会】

委員長　広中 和歌子（元環境庁長官・公益社団法人環境生活文化機構会長）
委　員　竹内 恒夫（名古屋大学大学院環境学研究科教授）
委　員　星野 智子（一般社団法人環境パートナーシップ会議副代表理事）
委　員　森 高一（NPO法人日本エコツーリズムセンター共同代表）

（２）平成 29 年度受賞者

【環境大臣賞】

◆ 資源と環境の教育を考える会「エコが見える学校」

製品のライフサイクルに関する環境教育教材等の開発・調査研究及びワークショップ等の開催。持続可能な社会の維持に不可欠な環境市場を確立するため、ものづくり企業を中心に産学多岐にわたる企業・団体が任意団体を結成し、各種資源・環境問題に関して教育やステークホルダーとのコミュニケーションに関する活動として、教材開発・指導者育成・調査研究等を実施している。ワークショップ及び学校現場での出張授業の開催、環境関連イベント出展等を年間約 20 回実施。製品の LCA を調べるすごろくゲーム「ものの一生すごろく」、食器の破損より不可逆性やものの大切さ・繕いへの気づきを期待するプログラム「われたらパズル」などユニークな教材が多数。

【公益社団法人環境生活文化機構会長賞】

◆ 佐川急便株式会社「佐川急便が取り組む CO_2 排出削減に向けた『運び方改革』」

物流事業者の社会的責任として取り組む環境負荷の低減、CO_2 排出削減活動。主に、環境対応車の導入による集配時の CO_2 削減、長距離トラック輸送を環境負荷の低い鉄道や船舶の輸送に切り替えるモーダルシフトの推進、大型施設の物流プロセスを大幅に効率化することで施設のみなら

ず周辺地域の環境負荷も低減する「館内物流システム」、「スマート納品」など、持続可能な社会づくりへと繋がる「低炭素・脱炭素社会」の構築に資する取り組みを積極的に進めている。2016 年度の CO_2 排出量削減効果は約17万 t ／年（約30%）。さらに、社有林「高尾 100 年の森」での持続可能な里山再生・保全活動や環境教育等「自然との共生」を目指した活動も実施している。

◆ 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

「みんなで守ろう！日本の希少生物種と自然環境『SAVE JAPAN プロジェクト』」

全国の NPO と連携して、各地で市民参加型の多様な生物多様性保全活動を実施するプロジェクト。2011 年度から、認定 NPO 法人日本 NPO センターとともに、地域の NPO 支援センター、環境 NPO と連携して活動を展開し、市民の方々に身近な自然環境に関心を持つ機会を提供するとともに、企業と NPO が市民と協働で環境保全活動を実施することで、「いきものが住みやすい環境づくり」を目指している。秋田県白神山地での植樹体験や大分県中津干潟での鑑賞会など、各地域の実情にあった生物多様性の保全活動を全国で行っており、2017 年 3 月末現在、累計 647 回開催、のべ 32,175 人が参加している。

【公益社団法人環境生活文化機構理事長賞】

◆ アースサポート株式会社

「子ども向け環境教育＆企業向け廃棄物セミナー・見学会の開催」

廃棄物処理事業者による子ども向け環境教育及び企業向け廃棄物セミナー・見学会等の開催。廃棄物処理業は、廃棄物の適正処理・リサイクルにより地域の公衆衛生に貢献するとともに、限りある資源の循環利用と地球環境の保全を推進することに繋がる。それをより推進していくためには、廃棄物処理業者だけではなく、家庭や企業など廃棄物を排出する側の協力が不可欠になってくる。そのため、地元の子どもたちなどを対象に、廃棄物やリサイクル、食育の環境教育活動、排出事業者である企業向けに廃棄物セミナー・廃棄物処理状況見学会を行っている。2001 年からはじめた活動は、2017 年 8 月末現在、100 回以上開催し、のべ約 6,150 名が参加している。

◆ 田中商店株式会社「水俣エコタウンのびんリユース推進活動」

南九州地域の洗びん事業者による、びんのリユース推進活動。2001 年に国より地域承認された水俣エコタウンの中核事業である。水俣市や地域住民及び焼酎蔵元や酒販店と連携した900ml茶統一R(リユース）びんの普及活動を 2003 年から開始し、2016 年度の全国回収率は 49.4%にまで達している。また、グリーンコープ生協と連携した6種類のＲびん事業(回収累計約200万本）や 2013 年スタートの地元休耕田や耕作放棄地を活用した水俣特産焼酎（720mlR びん）販売事業は、取り組む人の顔が見える地産地消推進活動として高い評価を得ている。その他同社施設では、修学旅行や大学・民間・行政・JICA 研修等の受け入れを通して環境保全・啓発活動を実施している。

（３）表彰式

平成 29 年 11 月 20 日、ＫＫＲホテル東京（東京都千代田区）にて表彰式を開催した。

はじめに来賓の環境省総合環境政策統括官 中井 徳太郎氏よりご挨拶をいただき、広中和歌子審査委員長から各受賞者の講評があった。

続いて受賞者に表彰状が授与され、その後、受賞者の資源と環境の教育を考える会 学長・顧問 西尾 チヅル氏、佐川急便株式会社 取締役 総務・ＣＳＲ推進担当兼ＣＳＲ推進部長 内田 浩幸氏、損害保険ジャパン日本興亜株式会社 ＣＳＲ室 リーダー 佐々木 美絵氏、アースサポート株式会社 代表取締役 尾﨑 俊也氏、田中商店株式会社 専務取締役 田中 利和氏から謝辞をいただいた。第二部の懇親会では、各受賞者から具体的な受賞活動を紹介いただき、参加者と懇談した。

環境大臣賞 資源と環境の教育を考える会・西尾学長への表彰状授与

会長賞（左：佐川急便(株）内田取締役　右：損害保険ジャパン日本興亜(株）佐々木リーダー）

理事長賞（左：アースサポート(株）尾﨑社長、右：田中商店(株）田中専務）

○　前列左から　堀松代表理事、鳥越代表理事、田中専務（田中商店)、尾﨑社長（アースサポート)、西尾学長（資源と環境の教育を考える会)、内田取締役（佐川急便)、佐々木リーダー（損保ジャパン)、中井統括官（環境省)、広中会長

○　後列左から　横山監事、長谷川監事、木村監事、吉川氏（資源と環境の教育を考える会)、中村氏（資源と環境の教育を考える会)、原氏（アースサポート)、新木氏（資源と環境の教育を考える会)、竹下氏（佐川急便)、柴氏（佐川急便)、駒木根氏（損保ジャパン)、外川理事、寺田理事

持続可能な社会づくり貢献の5団体を表彰

環境生活文化機構

環境生活文化機構（広中和歌子会長）は先月20日、持続可能な社会づくりに貢献した5団体を表彰した。環境大臣賞は、資源と環境の教育を考える会「エコが見える学校」が受賞した。東京都内の企業と団体の有志が製品LCAを中心とする環境教育を行っている点が評価された。

その他の受賞者は次の通り。▽環境生活文化機構会長賞＝佐川急便「佐川急便が取り組むCO₂排出削減に向けた運び方改革」▽同上＝損害保険ジャパン日本興亜「みんなで守ろう！日本の希少生物種と自然環境SAVEJAPANプロジェクト」▽環境生活文化機構理事長賞＝アースサポート「子ども向け環境教育&企業向け廃棄物セミナー・見学会の開催」▽同上＝田中商店「水俣エコタウンのびんリユース推進活動」

環境新聞（平成 29 年 12 月 6 日）

4．講演会・研修会・シンポジウム等開催事業

◆ 第 21 回環境文化講演会

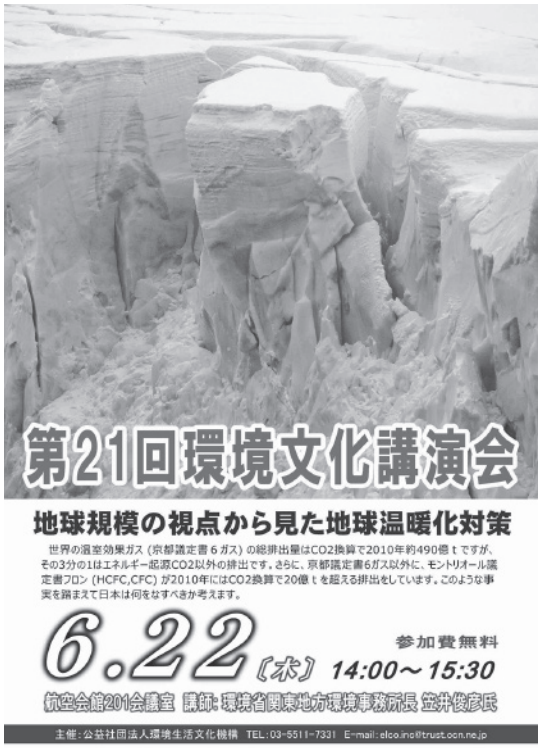
毎年 6 月に環境月間実施行事として、環境保全に関する生活文化および社会経済システムに関する知識の普及啓発を目的に、地球環境や循環型社会に関する幅広いテーマについて、高度の学識と豊富な経験を持つ有識者を招き、環境文化講演会を開催している。

平成 29 年度は下記のとおり開催し、当日は一般市民を含め約 60 名の参加があった。

日程：平成 29 年 6 月 22 日（木）　　場所：航空会館（東京都港区）
講師：環境省関東地方環境事務所長 笠井 俊彦氏
演題：地球規模の視点から見た地球温暖化対策

当日の講演は、世界を取り巻く地球温暖化の現状、そしてフロンの温暖化効果、またフロン規制の制度対応状況等について解説いただいた。

笠井氏は、2010 年の世界の温室効果ガスの総排出量約 495 億 t（CO_2 換算）の 3 分の 1 はエネルギー起源 CO_2 ではなく、土地改変による CO_2 排出や産業プロセスで発生する CO_2、メタン、N_2O（亜流化窒素）、フロンなどで、なかでもフロンは CO_2 換算で毎年20億 t を超える排出が看過されている現状について警鐘を鳴らし、温室効果ガスのより効果的な排出削減のため、発展途上国と先進国との共同貢献（Joint Contribution）により取り組む新たな仕組みの必要性について語った。



案内チラシ

環境省 笠井俊彦氏

講演の様子

5．環境保全に配慮した生活文化に関する広報・普及啓発事業

（1）季刊誌「エルコレーダー」の発行

本機構の事業や環境保全に関する情報発信・情報交流によって循環型社会に対する多くの人々の関心を高めることを目的に、季刊誌「エルコレーダー」を4回発行した。

◆ 第70号（平成29年4月1日発行）

〔巻頭〕立教大学観光学部 教授 東 徹氏インタビュー
「観光も環境も、多様性がもたらす恵み」

〔特別連載〕日本の森林保全1「日本の森林、その変貌の歴史」
北海道大学大学院農学研究院 教授 中村 太士氏

〔連載〕環境を見つめる人々53「イリオモテヤマネコを見つめる」
立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科
教授 萩原 なつ子氏

〔連載〕エコ＆ユニフォーム最前線21「ユニフォームが示す未来」
ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

〔会員紹介 ―エルコマインズ〕
「『明るく楽しいユニフォーム文化の創造』目指し」
シーユーピー株式会社 営業支援部 商品開発課 課長 洲脇 知弥氏

〔事務局だより〕

◆ 第71号（平成29年7月21日発行）

〔巻頭〕第21回環境文化講演会 基調講演
「地球規模の視点から見た地球温暖化対策」
環境省関東地方環境事務所長 笠井 俊彦氏

〔特別連載〕日本の森林保全2「森林の公益的機能」
北海道大学大学院農学研究院 教授 中村 太士氏

〔連載〕環境を見つめる人々54「生ごみを活かす」
立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科
教授 萩原 なつ子氏

〔連載〕エコ＆ユニフォーム最前線 22
「『都市鉱山』という考え方」
ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

〔事務局報告〕
「平成 28 年度リサイクルマーク事業
ユニフォームリサイクルシステム実施状況」
「平成 28 年度地球環境基金助成活動
里山を通じた循環型地域づくりのための次世代（ユース）育成・交流促進事業」

◆ 第 72 号（平成 29 年 10 月 1 日発行）

〔巻頭〕国立科学博物館 人類研究部 人類史研究グループ長
人類進化学者 海部 陽介氏インタビュー
「太古の昔、日本列島に、初めて人間がやってきた
—3 万年前の驚異の航海者たち—」

〔特別連載〕日本の森林保全 3「森と川と海のつながり」
北海道大学大学院農学研究院 教授 中村 太士氏

〔連載〕環境を見つめる人々55「紙おむつが地球を救う！？」
立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科
教授 萩原 なつ子氏

〔連載〕エコ＆ユニフォーム最前線 23「未来へと送る風」
ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

〔寄稿〕「SDGs の意義と活用」環境省参与 奥主 喜美氏

◆ 第 73 号（平成 30 年 1 月 1 日発行）

〔巻頭〕新春対談 高知県 尾﨑 正直知事×広中 和歌子会長
「“地産外商”で豊かな田舎の実現を
—龍馬を生んだ高知らしく、斬新な発想で取り組む—」

〔特別連載〕日本の森林保全 4
「日本の森の現状と将来への展望」
北海道大学大学院農学研究院 教授 中村 太士氏

〔連載〕環境を見つめる人々56
「みえない汚染に立ち向かう —第三の選択—」
立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科
教授 萩原 なつ子氏

〔連載〕エコ＆ユニフォーム最前線 24
「海の向こうのエコ事情～国際労働安全機材・技術展「A＋A2017」視察記」
ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

〔事務局報告〕「平成 29 年度持続可能な社会づくり活動表彰」

（２）ホームページ

本機構のホームページでは、情報公開・情報発信を目的に、機構情報や事業の紹介等を行っている。リサイクルマーク事業のページは、リサイクルシステムを利用する会員の利便性を考慮し、必要書類等のダウンロード機能を付加しているほか、調査研究事業の活動実施状況の公開、季刊誌「エルコレーダー」の掲載、持続可能な社会づくり活動表彰の募集・結果告知、環境文化講演会の参加申し込み受付等を行っている。

Ⅱ　組織運営

１．理事会・社員総会の開催

本機構の円滑な運営を図るため、平成 29 年度は下記のとおり理事会及び社員総会を開催した。

◆ 第 1 回理事会

日程：平成 29 年 6 月 1 日（木）　場所：航空会館（東京都港区）

内容：第 22 期（平成 29 年 3 月期）事業報告及び決算報告の承認
役員候補者の選定
新規入会会員の承認
平成 29 年度定時社員総会招集の決定
第 21 回環境文化講演会及び平成 29 年度持続可能な社会づくり活動表彰報告等

◆ 第 2 回理事会

日程：平成 29 年 6 月 22 日（木）　場所：航空会館（東京都港区）

内容：内閣府への事業報告等定期提出書類の承認
代表理事の職務執行状況報告等

◆ 定時社員総会

日程：平成 29 年 6 月 22 日（木）　場所：航空会館（東京都港区）

内容：第 22 期（平成 29 年 3 月期）事業報告及び決算報告の承認
役員の選任

◆ 第 3 回理事会

日程：平成 29 年 6 月 22 日（木）　場所：航空会館（東京都港区）

内容：代表理事の選定
役付け理事の選定

◆ 第 4 回理事会

日程：平成 30 年 3 月 8 日（木）　場所：航空会館（東京都港区）

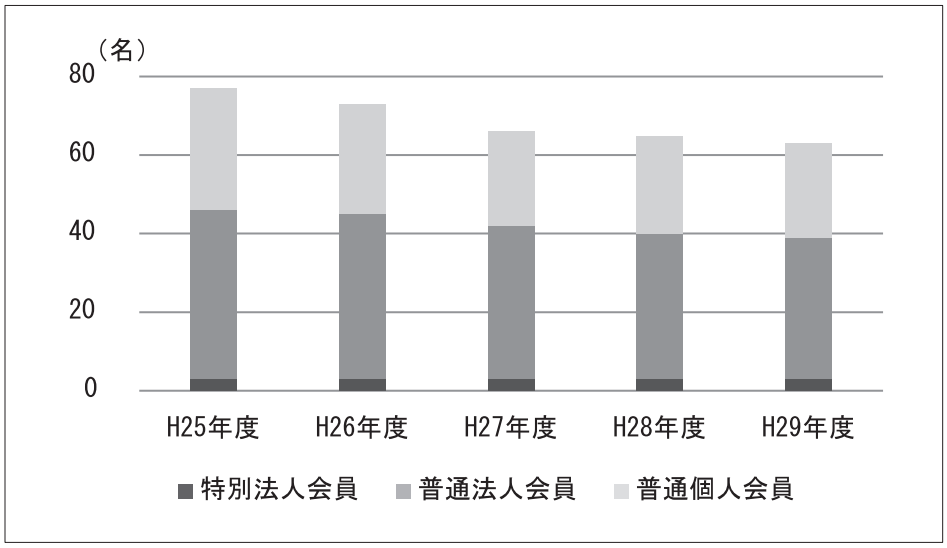
内容：平成 30 年度（第 24 期）事業計画・収支予算・資金調達及び設備投資の見込みに関する書類の承認

新規入会会員の承認
平成 30 年度持続可能な社会づくり活動表彰実施要領の決定
第 22 回環境文化講演会開催計画の決定
代表理事の職務執行状況報告

２．会員数

平成 30 年 3 月期末の本機構会員数は 63 名であった。内訳は、特別法人会員 3 名、普通法人会員 36 名、普通個人会員 24 名である。

過去 5 年間の会員数の推移は、次のとおりである。



過去５年間の会員数推移